

親鸞聖人旧跡・志賀の大仏（おぼとけ）日帰り巡拝しおり

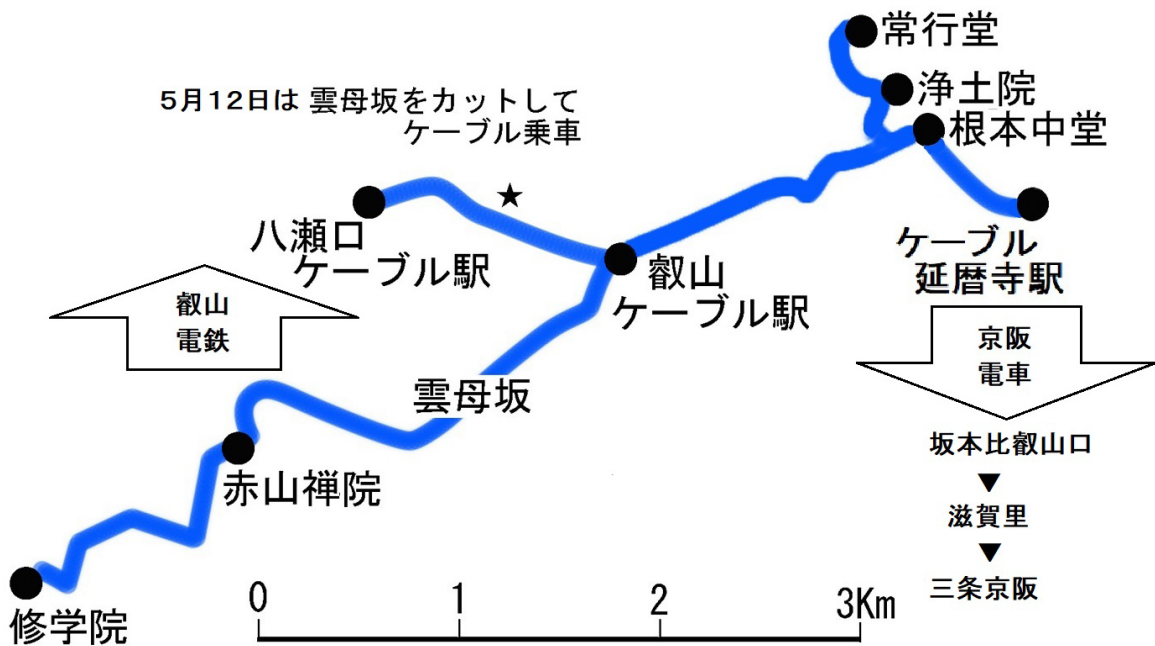
1. 目的	親鸞聖人旧跡（常行堂特別拝観）・志賀の大仏、日帰り巡拝
2. 巡拝地	西塔・東塔（常行堂特別拝観）→滋賀里駅（志賀大仏）→三条京阪
3. 所在地	滋賀県大津市坂本本町・滋賀県大津市滋賀里町甲
4. 巡拝日程	2024年5月12日（日）、25日（土）

注意：祖師の旧跡を参拝する意義を理解したうえで、僧侶にふさわしい言動を心掛けて下さい。
 常行三昧堂の堂内参拝も許可頂いております。（布袍・輪袈裟・念珠を持参）
 恭敬の心を忘れず、ゴミなども持ち帰るようにしましょう。

- 8：37発 叡山電鉄出町柳駅（8：25集合）
 8：51着 八瀬口駅前（標高116m）⇒ 9：00発 ケーブル八瀬口駅（標高135m）
 ↓ 標高差555m
 9：09着 ケーブル比叡（標高690m）
 ↓ 標高差65m
 9：30頃 東塔・根本中堂・巡拝券購入（標高625m）
 10：30頃 山王院（標高715m）
 ↓ 標高差45m
 11：45頃 西塔・釈迦堂とにない堂（標高670m）昼食
 ↓
 12：10頃 にない堂（標高670m）
 13：00 常行堂の堂内拝観
 ↓
 14：30頃 根本中堂（標高625m）
 15：00頃 ケーブル延暦寺駅 →坂本駅→坂本比叡山口駅（京阪電車）
 16：00頃 滋賀里→志賀の大仏参拝
 17：00頃 三条京阪駅にて解散

交通費：2440円（往路：叡電280円、ケーブル550円、復路：ケーブル870円、京阪電車740円）、巡拝券：1000円、（金額は、2024年3月現在）予備費：適宜

西塔(常行堂)・東塔を経て坂本から志賀大仏を巡拝



比叡山西塔 常行三昧堂

親鸞聖人ご修行の地（ただし、横川の常行堂であったとも）。

西塔の伽藍の中で「にない堂」と呼ばれるのが常行堂と法華堂です。天台宗の修行の中、止観業としての四種三昧があります。具体的には、常坐三昧、常行三昧、半行半坐三昧、非行非坐三昧の四つの止観業です。その中の二番目の常行三昧は『般舟三昧経』を抛り所とする修行で、阿弥陀仏を觀ずるものであって、常行三昧堂で行われます。

『般舟三昧経』を引用した天台大師智顛講述の『摩訶止観』第二卷には

「九十日、身は常に行じて休息なく。九十日、口は常に阿弥陀仏を唱えて休息なく。九十日、心は常に阿弥陀仏を念じて休息なし。」

「歩々、声々、念々、ただ阿弥陀仏にあり。」とあります。

親鸞聖人の妻・恵信尼さまが書かれた手紙に「殿（親鸞聖人）の比叡の山に堂僧つとめて在しましけるが」とあるように、親鸞聖人の修行の地であったと考えられています。



にない堂と渡り廊下



常行三昧堂

志賀の大仏（しがのおぼとけ）

京都と大津を結ぶ山中越の旧道にある。高さ約 3.5 メートル、幅約 2.7 メートルの花崗岩に、厚肉彫りに彫り出した高さ 3.1 メートルの阿弥陀如来坐像（あみだによらいざぞう）です。鎌倉時代、13 世紀頃につくられたと考えられ、上半身に彫刻の主力をおいた、ゆったりとした雰囲気のため石仏です。この石仏の横を通る道は、崇福寺跡から山中町を経て京都の北白川へとぬける旧山中越（志賀の山越）で、大津側の入り口に位置するこの場所と、山中町の西教寺門脇、京都の北白川に石仏があり、いづれも山中越を利用した旅人が道中の安全を祈願したともいわれています。現在、地元で「大仏講」がつくられ、大切にお守りされています。大津市教育委員会

最初に参拝したときは旧道をバイクで登りました。何度か参拝する内に、最寄りの駅から徒歩で行くことができることに気付きました。京阪滋賀里駅から西へ徒歩で片道約 15 分です。



志賀の大仏（おぼとけ）の拝殿



大仏（おぼとけ）の尊顔

巡拝という趣旨からも、各堂内及びご本尊の撮影は厳禁です。心のフィルムにしっかりと焼き付けて、よい思い出として頂きたいと思います。